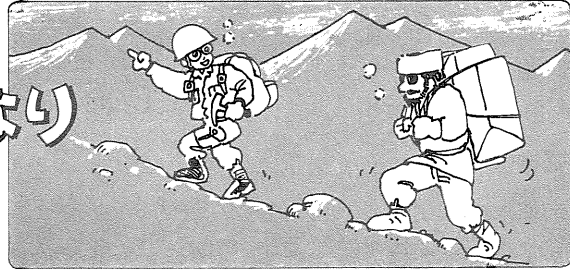


海外室だより



No. 18

集団研修20周年記念行事

本誌前月号で紹介したように 沿海鉱物資源探査および地下水資源開発の2つの集団研修コースは 本年度実施分で第20回目を数えるに至った。20周年の記念行事を何らかの形で実施することは すでに前年度から 斉藤グループ長を中心に検討されて来た。過去の修了生を集めてのアドヴァンスド・コースの開講 両コースにちなむ国際シンポジウムの開催などの案もあったが いずれも準備期間等に難点があり 結局 今回の両コースの研修期間中の1日を選んで 記念講演会を開催し 合わせて記念の祝賀会を催すことに落着いた。

以降 シンボルマークの作成(本欄No.15参照) 両コース卒業生名簿の集約 講師の依頼 招待状の発送等々の準備を整え 11月14日の当日を迎えた。天候にも恵まれ 内外から予想以上の参加者を得て 会は成功裏に終始した。以下当日の様子の一端をスナップ写真を中心に紹介しておくことにする。

記念講演会

11月14日午後1時30分 工技院共用講堂2階会議室において

20th Anniversary of Group Training Courses
in
Offshore Prospecting



写真2 参加者の一部(中央は垣見所長)

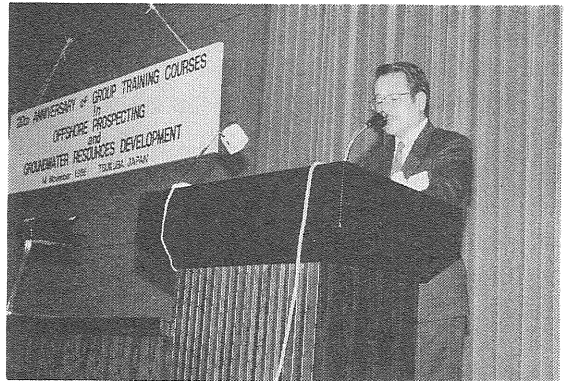


写真1 開会の辞を述べる倉沢海外室長

and

Groundwater Resources Development

のタイトルの下 倉沢海外室長の Introductory talk を皮切りに4人の招待講師による記念講演会が開始された。

講師と演題を次に記す。

- 蔵田延男 Twenty years of training in groundwater development
- 小野晃司 Environmental geology of the Kanto Plain-Progress in the last two decades
- 嶋崎吉彦 International co-operation and training in marine geosciences
- 早川正己 Deep seismic sounding survey and earthquake prediction

蔵田講師(元応用地質部長 現日本工業用水協会顧問)並びに早川講師(元物理探査部長 現東海大学教授)はそれぞれ地下水コース 沿海コースの生みの親とも言うべき先達で 御多忙中をさいてこの日の講演を快諾して頂いた。小野環境地質部長および嶋崎海洋地質部長は言うまでもなく現在の両コースの担当部長である。新旧担当部長の肩書きにも20年の歳月の間の地質調査所の機構の変遷を読みとることができる。



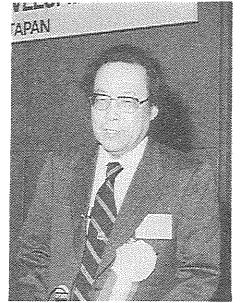
蔵田講師



小野講師



嶋崎講師



早川講師



写真 4 記念ハッピーを喜ぶ蔵田 早川先生

21名の両コースの研修生のために 講演はすべて英語でお願いした。日本人参加者の方が多い中で英語での講演には多少のテレもあったようではあるが そこはベテラン揃い それぞれの持味を生かしてのお話は いずれも記念講演にふさわしく たまたま20回目に来合せた今回の研修生にとっては 望外の特別講義になったことであろう。(遠藤)

記念パーティ

記念講演にひきつづき 研修生21名を始め 研修コース関連の内外講師 関係者約90名参加のもとに 記念パーティがグリーンハウス2階で開催された。 垣見調査所所長 大畑 TBIC 所長の挨拶から型どおり始まったパーティも コース創立功労者の早川 蔵田の両博士へのハッピープレゼントで最高調に盛りあがった。 ハッピーは沿海 地下水両コースとも それぞれ地調きってのデザイナー河村画伯の苦心の作を 沿海コースサブリーダー木下技官が自から染めあげた本邦唯一のものであり 20周年の贈呈品としてはまことに最適のものと言えた。若い女性にハッピーを着せてもらった早川博士は 日頃の温厚な学術ぶりからは想像できぬ マイクをとってのカ

ラオケという変身ぶりだった。 もっとも歌はベートーベン第九の第四章歓喜の歌のドイツ語版というさすがに教養あふれるものであったが 最後にフィリピンの伝統芸能バンブーダンスが披露された。 興がのるに連れて続々とび入り参加があり 遂には垣見所長も竹に足をはさまれながらの熱演となった。 翌日 足腰の痛む後遺症に悩まされた実年組もかなり居たのにちがいない。 とに角近年になく充実した内容と友好的ふんい気の中で時間を30分延長し それでも後に心を残しながら8時に散会となった。 因みに ハッピーはその後 複製注文が殺到し 22着もコピー製作の予定である。(桑形)

タイトルカット・イメージ

今月号からのイラストは山岳地帯の地質調査。 イメージは ネパールあたりかな？ ジオロジストのサポートをしてくれる力強くて やさしいジャンルのような そんな海外室になれるよう 私達スタッフはガンバリたいですネ！ これからもタイトルのイラストは年に2〜3回くらい変えていきたいと思っています。(河村)

地質ニュース	第389号	1月号
	定価 ¥ 630	〒 実費
昭和62年1月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所	
発行人	林 久雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951 (代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	

©1987 Geological Survey of Japan